

WORK GNOSIS CVS

シンプルでシャープな造形に 立体感を添えたツイステッド

今でこそ輸入車に国産ホイールという組み合わせは一般的になった感もあるが、それがまだ希少な時代にグノーシスは、輸入車用マルチピースとして発表された。シリーズはそこから細分化。2022年はまず、直線的な鍛造風味のCVから

問●ワーク 西日本 TEL.06・6746・2859 中日本 TEL.052・777・4512
東日本 TEL.048・688・7555 www.work-wheels.co.jp
文●酒井賢次

直線基調で鍛造感も満点
多彩なオーダー要素も魅力

グノーシスのCVシリーズは、まるでピレット鍛造のような直線の意匠に大胆なコンケイブフェイスを組み合わせた迫力あるデザインが最大の持ち味。その2022年モデルとなるこのCVSも、鋭角と直線とを多用することで、シンプルでありながらシャープで立体感あるオートコマエなフェイスとなっているのが特徴。基本造形は最旬のディレクション

形状だが、それを構成するのがすべて直線基調となるのが独特で、見る角度によってはヒネリ感があえて伝わりにくいシルエットとしているのがポイント。そのおかげでヒネリ感ではなく、シンプルさとシャープさがより強く表現されるのが新鮮だ。

10本のスポークは先端に向かうほど細くなり、それによってコンケイブ形状もより放射状になり、フェイスの立体感と広がり感もしっかり。スポークエンドにはアンダーカットも採用されていて、グノーシスらしい軽快さと質感、奥行き感も大だ。開口部も広いので、ビッグキャリパーとの相性も良く、基本的にはスポーツ路線が狙い目。とは言えヒネリ、ヒネリしていないから高品位系な装いにもなじむし、まるで鍛造のようなキレ味感もあるから、ガツンと落としたストリート系にもハマる。例えばBMWの3や4、アウディならA4、A5といったモデルからアッパークラスにジャストなモデルだ。ちなみにCVSは2ピース構造で、インセットはミリ単位でオーダーが可能。それに加えてカスタムオーダープランまで設定されるため、自分だけの一本を作る楽しみも味わえる。ディスクは標準色でも5色と多彩なのに、カラリズムクリアをはじめオプションカラーはそれこそ無数。リムアレンジも7種から選択可能で、センターキャップも好みのタイプへ変更できる。ちなみにフェイスはミドルコンケイブ、ディープコンケイブの2パターンから。サイズもコンケイブ感も、カラーもその組み合わせも、オプションを利用すれば個性化、まさに自由自在。遊べる一本だ。



マットブラック



マットシルバー

標準カラーはブラッシュドとここに挙げた4色の合計5種。マットからバフまでどれも魅力的な色味だが、さらに多彩なオプションカラーとリムアレンジでカラーコードも可能だ



コンボジットバフブラッシュド



バフフィニッシュ



ブラッシュド
→切削の質感が素材に残るブラッシュドは、CVSの鍛造テイストをさらに盛り上げてくれるフィニッシュ。スポーティ路線にぴったりだ

SPEC
GNOSIS CVS
7.5J×19インチ¥88,000～12.5J×22インチ¥196,900